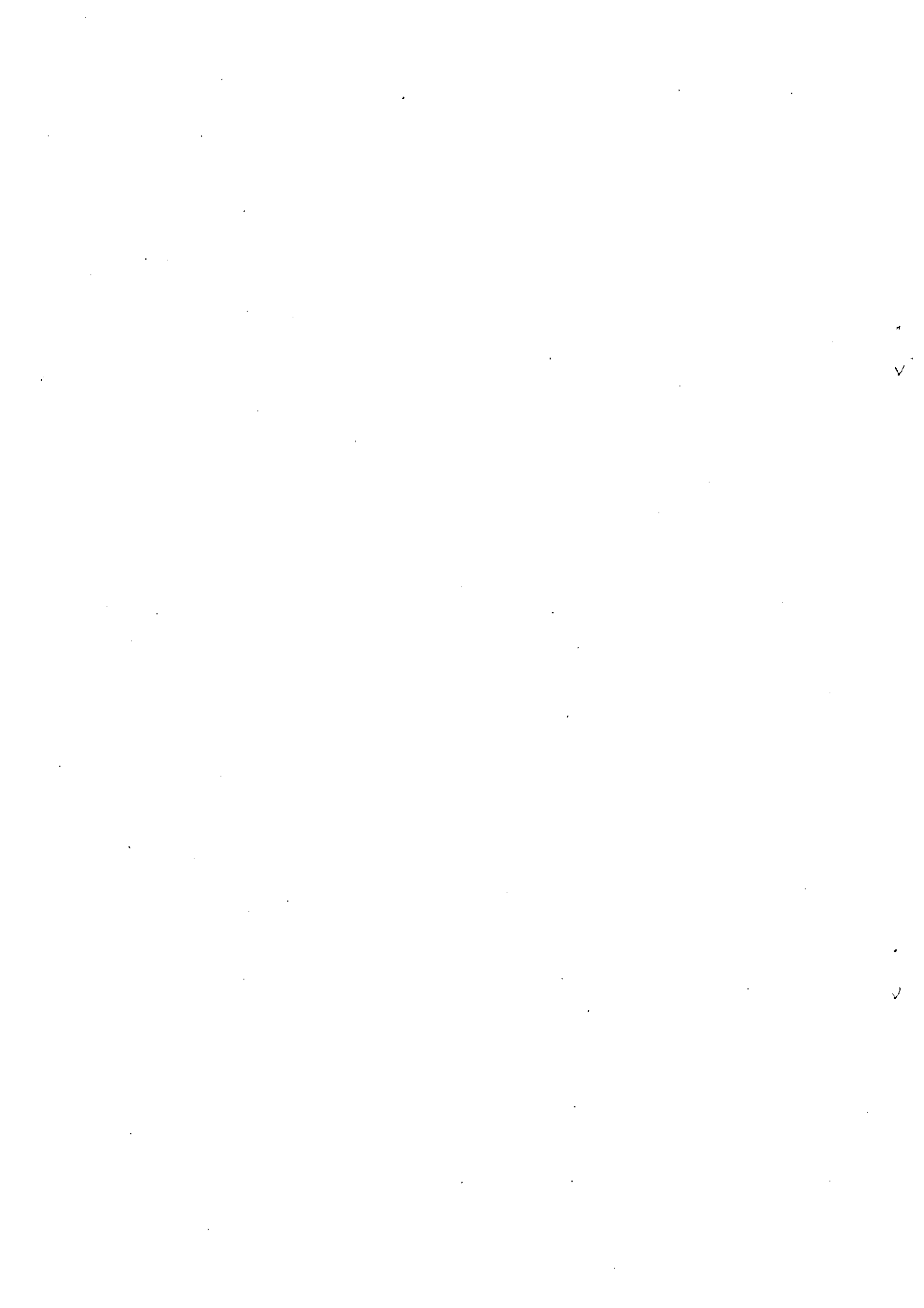


地域振興県土警察常任委員会資料

(平成29年5月19日)

- 1 鳥取市の中核市移行に係る調整状況について
【地域振興課】・・・1ページ
- 2 公立鳥取環境大学の入試実施状況と就職活動状況について
【教育・学術振興課】・・・2ページ
- 3 フランス自転車競技連盟幹部の県内自転車競技施設視察結果について
【スポーツ課】・・・3ページ
- 4 ニュージーランドでのワールドマスターズゲームズ大会視察調査及び
キャンプ誘致活動等の結果について
【スポーツ課】・・・4ページ
- 5 第3回鳥取県東京オリ・パラキャンプ誘致推進委員会の開催結果について
【スポーツ課】・・・7ページ

地 域 振 興 部



鳥取市の中核市移行に係る調整状況について

平成29年5月19日

地 域 振 興 課
福 祉 保 健 推 進 課
環 境 立 県 推 進 課
教 育 育 立 県 推 進 課
行 政 改 革 局 人 事 企 画 課

鳥取市の中核市移行に向け、現在の市との調整状況について報告します。

1 円滑な事務引継

事務事業ごとに、県の移行支援プロジェクトチーム及び市の部会において事務マニュアルや引継書、予算要求等に係る資料などをもとに事務引継ぎを行っている。

さらに、市における例規整備や附属機関の設置等に係る基準の摺合せや事務執行に活用する市のシステム整備に係る県との連携・引継などの具体の調整を進めている。

2 保健所業務の移管・委託

鳥取市が中核市に移行し保健所を設置した場合、東部4町域の保健所業務を市に委託する方針で、市の区域と東部4町の区域の保健所業務を円滑かつ確実に引き継ぐことができるよう調整を進めている。

(1) 保健所移行実践検討チーム・ワーキンググループ（平成29年4月13日設置）

4月26日に第1回チーム会議を開催し、市と県の事務の差違等も考慮し、市における事務の流れや県の中部西部圏域の保健所との業務連携等も踏まえた実践研修・訓練等の計画を8分野のワーキンググループにおいて作成することを決定した。

当該計画に基づき、5月下旬からの実践研修等の実施を予定している。

(2) 東部4町区域に係る保健所業務の県から市への委託（中核市移行の政令公布後を予定）

地方自治法第252条の14の規定により、市との協議により規約を定め、市に管理執行を委託する。県と市の協議にあたっては両議会の議決を必要とする。

〔規約に掲げる事項〕

- ・委託事務の範囲並びに委託事務の管理及び執行の方法
- ・委託事務に要する経費の支弁方法 等

3 市の組織・人員体制の検討状況

鳥取市では、県の事務処理体制を引き継ぐことを基本とし、平成30年4月の移行時に約75名（正職員）の増員配置を予定している。このうち、県は約50名の職員の派遣などを行う。

県は、中核市移行後、市において必要人員を独自に確保されるまでの間は、行政サービス水準を維持継続するため、県から職員派遣など必要な支援を行う。

(1) 人材育成

平成28年度から市職員の長期研修を県の東部福祉保健事務所及び東部生活環境事務所において実施するとともに、短期の業務研修等も行いながら、業務への習熟を進めている。

- ・長期派遣 平成28年度 1名（保健師）
（県受入） 平成29年度 8名（保健師、管理栄養士、事務職）

(2) 職員採用

平成30年4月に向けて、市は、平成28年度までに7名（保健師2名、事務職5名）、平成29年度中に13名（保健師、管理栄養士、歯科衛生士、衛生技師、事務職）の職員採用を予定しており、計画的に必要な人数の確保を進めている。

4 今後の主な予定

- ・5月下旬 第2回保健所移行実践検討チーム会議
- ・6月上旬 第8回鳥取市の中核市移行に関する県・市協議会
- ・6月定例県議会 「中核市指定に係る申出の同意」議案を提出

公立鳥取環境大学の入試実施状況と就職活動状況について

平成29年5月19日
教育・学術振興課

1 入試実施状況

- ・志願倍率は4.6倍（年次目標：定員の5.0倍以上）であり、4年ぶりに目標を下回ったが、入学定員充足率は115.9%（年次目標：100%達成）となった。
- ・県内出身者の入学者数は6名増加するとともに、入学者に占める県内出身者の割合14.7%と、昨年度に比べて若干増加した。
- ・今後も県内高校の進路指導担当教員や校長との意見交換の場などを通じ、受験の働きかけを行っていくとともに、昨年末に創設した「鳥取県内出身学生生活支援制度」を周知する等、志願者確保に努める。

学 部 名	環境学部		経営学部		合 計	
	29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度
募集人員(A)	138名	138名	138名	138名	276名	276名
志願者数(B)	614名	676名	664名	1,039名	1,278名	1,715名
(うち県内)(B')	(51名)	(42名)	(104名)	(157名)	(155名)	(199名)
(県内割合)(B'/B)	(8.3%)	(6.2%)	(15.7%)	(15.1%)	(12.1%)	(11.6%)
志願倍率(B/A)	4.4倍	4.9倍	4.8倍	7.5倍	4.6倍	6.2倍
入学者数(C)	151名	141名	169名	150名	320名	291名
(うち県内)(C')	(10名)	(8名)	(37名)	(33名)	(47名)	(41名)
(県内割合)(C'/C)	(6.6%)	(5.7%)	(21.9%)	(22.0%)	(14.7%)	(14.1%)

<参考>他の県内大学の入試実施状況

大 学 名	鳥取大学(注)		鳥取看護大学		鳥取短期大学	
	29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度
募集人員(A)	1,140名	1,140名	80名	80名	300名	300名
志願者数(B)	4,902名	6,112名	172名	143名	356名	333名
(うち県内)(B')	(778名)	(891名)	(134名)	(96名)	(264名)	(257名)
(県内割合)(B'/B)	(15.9%)	(14.6%)	(77.9%)	(67.1%)	(74.2%)	(77.2%)
志願倍率(B/A)	4.3倍	5.4倍	2.2倍	1.8倍	1.2倍	1.1倍
入学者数(C)	1,177名	1,163名	90名	83名	287名	280名
(うち県内)(C')	(194名)	(185名)	(75名)	(59名)	(226名)	(224名)
(県内割合)(C'/C)	(16.5%)	(15.9%)	(83.3%)	(71.1%)	(78.7%)	(80.0%)

注) 鳥取大学の県内出身者には、高等学校卒業程度認定試験(旧大学入学資格検定)合格者の人数は含まれていない。

2 就職活動状況

- ・公立化2期生が卒業した28年度の就職率は97.2%と、年次目標(全国国公立大学の平均値(28年度数値:90.9%)以上)を達成した。また、内定者に占める県内企業内定者の割合は22.9%で、前年比で1.3ポイント増加した。
- ・27年度から、学卒者の地元定着等を目的とした地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)に取り組み、県内の自治体や企業、団体等と協働して、インターンシップや地元志向人材の育成を進めているところであり、一層の推進を図っていく。

大 学 名	公立鳥取環境大学 (3/31現在)		鳥取大学 (5/1現在)		鳥取短期大学 (4/30現在)	
	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度
卒 業 者(A)	272名	240名	1,174名	1,112名	233名	258名
就職希望者(B)	247名	212名	678名	635名	223名	232名
(うち県内出身者)	(52名)	(53名)	(145名)	(141名)	(172名)	(176名)
内 定 者(C)	240名	208名	668名	624名	220名	228名
(うち県内企業)(C')	(55名)	(45名)	(135名)	(141名)	(162名)	(160名)
(県内企業割合)(C'/C)	(22.9%)	(21.6%)	(20.2%)	(22.6%)	(73.6%)	(70.2%)
内 定 率(C/B)	97.2%	98.1%	98.5%	98.3%	98.7%	98.3%

フランス自転車競技連盟幹部の県内自転車競技施設視察結果について

平成 29 年 5 月 19 日
ス ポ ー ツ 課

2020 年東京五輪の事前キャンプ地視察を目的に、フランス自転車競技連盟幹部のヴァンソン・ジャケ氏が来県し、練習会場となる倉吉自転車競技場をはじめ、県内の練習候補地等を視察しました。

1. 来県者

ヴァンソン・ジャケ（フランス自転車競技連盟 ※テクニカルディレクター）
※テクニカルディレクター フランス国自転車チームの選手育成部門のトップ



2. 視察期間

平成 29 年 4 月 17 日(月)～20 日(木)

3. 視察日程

日 付	視察先	視察内容
4 月 18 日 (火)	倉吉自転車競技場	自転車競技場施設の实地確認
	倉吉自転車競技場周辺のロードコース	車でのロードコース（2 種類）実走確認
4 月 19 日 (水)	鳥取県自転車競技連盟との意見交換	BMX、MTB コースについての条件確認等
	四王寺山 (MTB コース候補) 視察	MTB コースとしての利用可能性調査
	桜山荘、グリーンズコーレ関金視察	キャンプ中宿泊先としての利用可能性調査

<参考>自転車競技について

トラック＝トラック競技場の走路で行う自転車レース。

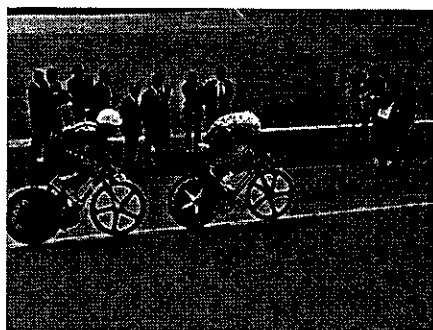
ロード＝交通規制された公道で行う自転車レース。

BMX＝ジャンプや傾斜カーブが設置された短距離オフロードコースで行う自転車レース。

MTB＝マウンテンバイクを使ってオフロードコースで行う自転車レース。開催地によって起伏に富む山岳コースや平坦なコースがある。

4. 結果概要及び今後の取組

- ・ジャケ氏は倉吉自転車競技場を拠点に、自転車競技 4 種目(トラック、ロード、BMX、マウンテンバイク)と一緒に事前キャンプを実施したい意向を表明した。とりわけ、倉吉自転車競技場の環境(豊かな自然と静粛さ)については、選手にとって「最高の環境」とコメントされた。
- ・トラック、ロードの 2 種目については、現状の施設、道路で問題ないとの評価であった一方、BMX、マウンテンバイクについては、今後施設やコースの整備が必要となる。
- ・宿泊先については、自転車競技場に近接している宿泊施設の利用を希望している。
- ・今後は、自転車競技連盟、倉吉市等の関係者と連携しながら、キャンプ誘致実現に向け、具体のコース案等をフランスチームへ提示していく。



(倉吉自転車競技場での視察の様子)

ニュージーランドでのワールドマスターズゲームズ大会視察調査
及びキャンプ誘致活動等の結果について

平成29年5月19日
スポーツ課

ニュージーランドで開催された、ワールドマスターズゲームズ2017オークランド大会に参加し、2021関西大会において本県で開催する競技の調査、グラウンド・ゴルフのPR等を行うとともに、ニュージーランドホッケーチームの東京五輪事前キャンプ誘致活動を行いました。

1 ワールドマスターズゲームズ2017オークランド大会視察等

(1) 大会参加等

平井知事が関西地域の知事等とともに関西大会訪問団としてオークランド大会の開会式参加、関係者面談、競技視察等を行った。(4月21日(金)～23日(日))

ア オークランド市長表敬訪問

鈴木大地スポーツ庁長官、井戸敏三関西広域連合長等とともにゴフ市長を訪問し、面談において関西大会への参加協力を要請した。

イ 大会開会式参列

関西大会関係者とともに大会開会式に参列、レセプションにおいて国際マスターズゲームズ協会(IMGA)のカイ・ホルム会長等と面談し、関西大会の成功に向けて強く協力を依頼した。

ウ ワールドマスターズゲームズ2021関西大会及びグラウンド・ゴルフPR

オークランド市内の関西大会PRブースで開催したイベントにおいて、関西大会や鳥取県の魅力を紹介し、関西大会への参加を呼び掛けるとともに、本県発祥のグラウンド・ゴルフを紹介し、PR会場内の特設コーナーでの体験を呼びかけた。

エ 競技視察

卓球、バドミントン、バレーボール等の視察や日本人選手の激励等を行った。

アーチェリー会場(開会前)を訪問し、オークランド・アーチェリークラブの会長と会場を視察しながら、大会運営の留意点等について意見交換を行った。

《開会式(ホルム会長と面談)》



《グラウンド・ゴルフPR》



《競技会場視察》



(2) グラウンド・ゴルフの普及PR活動

湯梨浜町等とともに、一般参加者向けの体験コーナー運営やオークランド市役所等関係者への説明を行い、グラウンド・ゴルフの普及PR活動を実施した。

ア 期 日 4月23日(日)、24日(月)

イ 場 所 関西大会PRブース前(23日)、オークランド市役所(24日)

ウ 実施者 宮脇湯梨浜町長等2名、県グラウンド・ゴルフ協会1名、県1名 ほか

エ 状 況

関西大会PR会場(23日)

会場内に体験コーナーを設置し、グラウンド・ゴルフの現地PRを実施したところ、約330

名が体験し、「手軽にプレイできて楽しかった」、「新しいスポーツに興味がある」、「家族で楽しみたい」等、グラウンド・ゴルフの魅力を感じてもらえた。

オークランド市役所訪問（24日）

市役所職員やスポーツ振興団体職員約10人にグラウンド・ゴルフの概要説明や実技紹介をした。市役所職員からは、グラウンド・ゴルフは期待以上のもので、ニュージーランドで広がる可能性はかなり高くニュージーランドでの普及展開ができるか話し合ってみたい、湯梨浜町で開催されるグラウンド・ゴルフ国際大会への参加も考えてみたいとの発言があった。

《体験コーナー》



《オークランド市役所での実技説明》



（3）競技の実施運営等調査

関西大会での本県実施競技の運営、参加者受入れの参考とするため、2017オークランド大会の運営状況等を競技団体関係者らと調査した。

■アーチェリー（ターゲット）

ア 期間 4月23日（日）～24日（月）

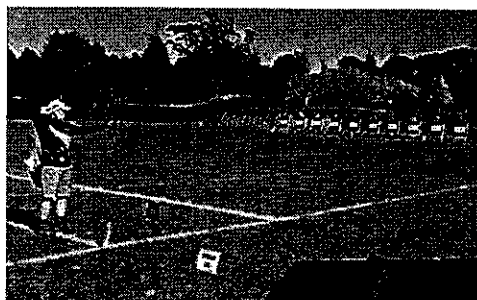
イ 場所 コーンウォールパーク（オークランド市）

ウ 調査者 県アーチェリー協会1名、県2名 ほか

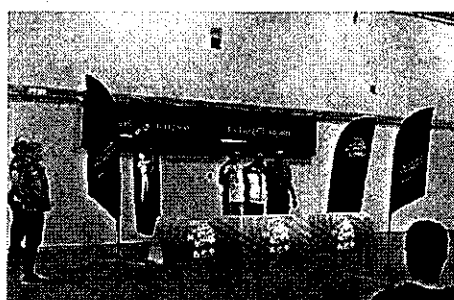
エ 状況と課題

- ・会場には通訳が配置されていなかった。本県開催時には、英語の通訳を配置するがその他多言語への対応も検討する。
- ・オークランド大会参加選手の一部は大会1週間程度前からの練習を希望しており、練習会場の長期利用を検討する必要がある。
- ・オークランド大会では、食事のふるまい、観光周遊プラン、交流の場、配宿調整等が無かった。本県開催時には、鳥取らしい温かいおもてなし（食や交流の場の提供）や周遊プランの提供等を計画することとしている。

《アーチェリー会場》



《表彰式》



■自転車（トラック、ロードレース）

ア 期間 4月28日（金）～4月30日（日）

イ 場所 トラック：アバンチドローム（ケンブリッジ市）

ロードレース：ブルースプルマンパーク（オークランド市）

ウ 調査者 県自転車競技連盟1名、県体育協会1名、県3名

エ 状況

- ・トラックは約6割、ロードレースは約8割が国内参加者であった。関西大会では国外からの参加促進のため、海外PRのほか、参加者や競技用具のスムーズな輸送や通訳体制等を整える必

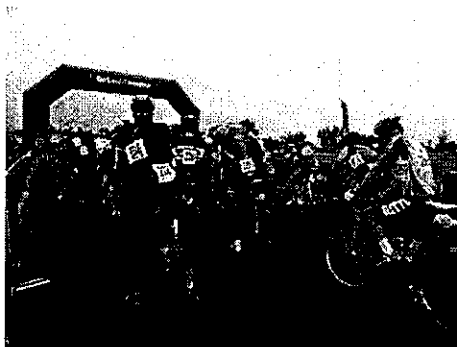
要がある。

- ・競技会場は必要最低限のスタッフ、会場設備で運営されていたが、開取りした選手の運営に対する評価は良かった一方、大会グッズ販売等は競技会場内になく、グッズ販売を求める選手の意見もあり、参加者へのおもてなしを十分に検討する必要がある。
- ・競技会場や閉会式では参加者同士が会話し交流を楽しんでいる様子であり、競技だけでなく交流を楽しむ大会であることがうかがわれ、参加者等が交流する場を提供する必要がある。

《トラック会場》



《ロードレース会場》



2 ニュージーランド ホッケーチームのキャンプ誘致活動

(1) 日 時 4月22日(土)

(2) 場 所 オークランド市内

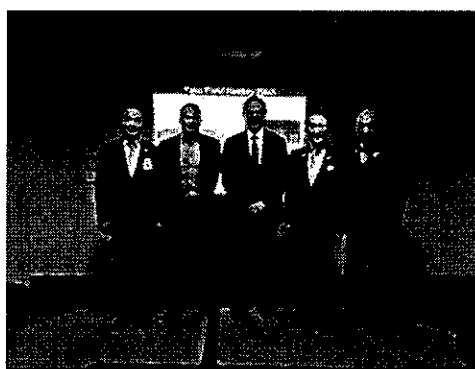
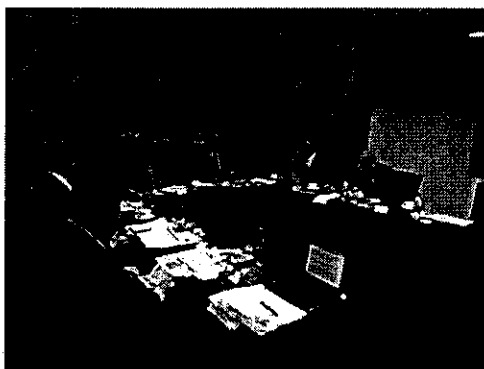
(3) 出席者 平井知事、県ホッケー協会 福田会長、八頭町 藪田教育長ほか

(4) 内 容

・東京五輪に向けたニュージーランド ホッケーチームの事前キャンプを鳥取県で行うことについて、ホッケー ニュージーランドのイアン・フランシスCEO及びイアン・ケネディ元駐日ニュージーランド大使に強く働きかけた。ホッケー競技施設、宿泊施設、ニュージーランドからのアクセス、八頭町で新ホッケー場を整備する計画があること等を説明するとともに、本県の自然・文化・食の魅力を紹介した。

・イアン・フランシスCEOからは、近々本県の視察を検討するとの発言があった。その後、ニュージーランド経済関係者も交えて意見交換を行った。

《イアン・フランシスCEO等との面談》



第3回鳥取県東京オリ・パラキャンプ誘致推進委員会の開催結果について

平成29年5月19日
スポーツ課

東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプや世界大会等の本県誘致に向けた取組、その方向性の確認を目的に、市町・競技団体など関係者が集まり「第3回鳥取県東京オリ・パラキャンプ誘致推進委員会」を開催しました。

- 1 日 時 5月17日(水) 午前10時～10時50分
- 2 場 所 県庁特別会議室(議会棟3階)
- 3 参加団体・参加者
 - 《自治体》
県(平井知事)、鳥取市(尾室教育長)、倉吉市(石田市長)、八頭町(吉田町長)、境港市(川端参事)
 - 《競技団体》
鳥取陸上競技協会(浜崎会長)、県卓球連盟(武田会長)、県セーリング連盟(安田会長)、県ホッケー協会(福田会長)、県自転車競技連盟(岡田理事長)、県ラグビーフットボール協会(松原副会長)、鳥取パラ陸上競技協会(山本会長)
 - 《スポーツ団体》
県体育協会(油野会長)、県障がい者スポーツ協会(福留会長)
- 4 内 容
 - ・議事(平成28年度事業・決算報告、平成29年度事業・収支計画)
 - ・意見交換(各競技団体の取組状況、誘致に係る課題等)
- 5 会議での意見・今後の方向性
 - キャンプのためだけではなく、競技力向上やスポーツを通じた地域振興も見据えて、引き続き、競技団体や関係市町とともに、東京オリ・パラに向けたキャンプ誘致等の取組を進めていく。
 - 《陸上》
ジャマイカのキャンプ誘致正式決定に向けて、陸上交流やホストタウンとしての各種事業を実施しつつ、引き続き交渉を進めていく。
 - 《卓球》
2018年の「世界カデットチャレンジ大会」の開催地に立候補しているところ。また、東京五輪キャンプの実施に関心を持っている香港と交渉を進めていく。
 - 《セーリング》
「2019年レーザー級世界選手権大会」を境港公共マリーナで開催するため、実行委員会設立に向けて準備中。同大会の事前合宿の誘致に向けて、クロアチアとの接触を進めていく。
 - 《ホッケー》
ニュージーランドのキャンプ誘致に向けて、東京五輪仕様の人口芝の整備等の課題について検討するとともに、関係者を招へいし、県内視察・意見交換等を行う。
 - 《自転車》
フランスのキャンプ誘致に向けて、BMXやマウンテンバイクのコース整備等の課題について検討するとともに、関係者を招へいし、県内視察・意見交換等を行う。
 - 《ラグビー》
海外の競技関係者等との繋がりをつくり、キャンプ誘致に向けたアプローチをしていく。
 - 《パラ陸上》
2019年の「ジャパンパラ陸上大会」誘致に向けて、働きかけを行う。

<参考：その他本県に誘致した大規模大会>

- ・2018年スポーツクライミングアジア選手権(時期：平成30年5月又は6月、会場：倉吉市)

